

平成29年度
第1回岡山市基本政策審議会
会議録

日時：平成29年8月21日（月）10：30～12：00

場所：岡山市役所本庁舎3階第3会議室

平成29年8月21日（月）

開会

1 開会

○事務局（草野） ただいまより平成29年度第1回岡山市基本政策審議会を開催いたします。私、本日の司会を務めさせていただきます政策企画課課長代理の草野でございます。よろしくお願いいたします。

それでは開会に当たりまして、大森雅夫岡山市長よりご挨拶を申し上げます。

2 市長あいさつ

○大森市長 皆さんおはようございます。お忙しい中、審議会にご出席いただきまして本当にありがとうございます。

岡山市の総合計画、長期構想、そして前期中期計画策定に際しましては、2年間の長きにわたりご審議をいただきまして本当にありがとうございました。立派なものをつくっていただいたというように思っております。この計画は、計画をつくって終わるというわけではございません。毎年PDC Aサイクルにかけることによってより実効あるものにしていきたいというように思っております。

今日は皆様方から様々なご意見をいただき、それらを踏まえて来年度の予算に一つの新しい姿として、計画に基づく姿として要求をさせていただき、議会でも議論させていただきたいというように思っております。忌憚のないご意見をよろしくお願い申し上げます。

○事務局（草野） それでは続きまして、越宗会長からご挨拶いただきます。

3 会長あいさつ

○越宗会長 皆さんおはようございます。委員の皆様には、平成29年度第1回の基本政策審議会にご出席いただきましてありがとうございます。先ほど市長からお話ございましたけども、この岡山市の第六次総合計画、委員の皆様には長期構想、それから前期中期計画、それぞれに当たりまして、それぞれ専門的な見地、広い見地からご意見いただきましてありがとうございます。お話にありましたように、この計画を策定することがもち

ろん目的ではありませんで、これをいかに着実に実行していくかが大事なことであろうかというふうに私どもも考えております。

大森市長ご就任以来、様々な取組でまさに岡山市が動いたと、動いていくということを実感しているのは委員の皆様もご存知ではなかろうかというふうに思います。とはいっても、まだまだ岡山市にとりましては解決しなければならない課題が若干あるかというふうに思います。

本日は、平成29年度第1回の審議会ということをございまして、市当局から前期中期計画にかかる28年度を取組実績につきまして報告をいただきます。その上で委員の皆様にはそれを踏まえて、現状の総合的な変化であるとか、あるいは今後、事業、施策を進めていく上での留意すべき視点でありますとか、あるいは新たに動くいろんな要素はないかとか、そのようなところでいろいろご意見をいただきまして、当局に今後の事業の推進に当たっての参考としていただければと、そんなふうに考えているところでございます。

大体12時ぐらいまでを目途にしておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

開会に当たりましてのご挨拶とさせていただきます。

○事務局（草野） それでは続きまして、本日の委員の皆様の出席状況についてでございますが、本日は3名の委員の方がご都合により欠席でございます。なお、本審議会設置条例第6条第2項に規定しております委員過半数のご出席をいただいておりますので、当審議会は成立しております。それでは、本審議会設置条例第6条第1項によりまして会長が議長となることになっておりますので、これからの議事運営につきましては越宗会長にお願いいたします。

○越宗会長 それでは、着席して進めさせていただきます。では、会議資料の次第に沿いまして進めさせていただきますと思いますが、初めに、このたび泉史博委員が6月に中国銀行さんの相談役をひかれたということから、本審議会の委員についても辞任したいと、そういう申し出がございました。後任には、同じく中国銀行の加藤貞則代表取締役専務さんが先月13日から新たに委員にご就任であります。それから、もう一方は岡山市連合町内会役員改選に伴いまして、小山旭委員にかわりまして、永見勝岡山市連合町内会副会長さんが同じく7月13日から委員に就任されております。本日、永見委員はご都合で欠席ですが、それでは加藤委員から一言ご挨拶をいただきたいと思っております。

○加藤委員 初めまして。私は中国銀行専務の加藤貞則と申します。先ほどご案内いただきました泉相談役が退任でございまして、後任ということで、このたび続いて岡山市基本政策審議会委員という大役を仰せつかりました。私の今までの経験等をなるべく反映できればと思っております。皆様のお役に立てるように頑張りますので、よろしく願いいたします。

○越宗会長 ありがとうございます。それで、ここで泉委員がこの審議会の副会長でありましたので、それによりまして新たに副会長選出の必要がございます。これから副会長の選出に入らせていただきます。副会長には、岡山市基本政策等に関する審議会設置条例第5条第2項に基づきまして委員の互選により定めると、そのようになっております。それで、副会長についてここで委員の皆様からご意見がございましたらお願いしたいと思っておりますが。

はい、塩見さん。

○塩見委員 NPO法人岡山市日中友好協会の会長の片山浩子さんをお願いしたいと思っておりますが、いかがでございませうか。

○越宗会長 ただいま片山委員さんを推薦したいというご意見がございましたが、皆様いかがでございませうか。よろしゅうございませうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○越宗会長 それでは、全員一致で副会長は片山委員さんということに相なりました。それでは、ご賛同いただきましたので、副会長、こちらの席のほうへご移動をお願いしたいと思います。それでは、片山副会長から一言挨拶を。

○片山委員 大変微力でございますけれども、越宗会長、また皆様方のご協力のもと務めさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○越宗会長 ありがとうございます。それでは、議事のほうに入らせていただきたいと思います。その前に、今回の傍聴の取り扱いについて事務局から説明をお願いいたします。

○事務局(草野) 今のところ傍聴希望者はいらっしゃいませんが、特に支障がなければ本審議会を公開といたしまして、この後傍聴希望者が来られた場合は傍聴の許可をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

○越宗会長 本日の審議につきまして特に支障となる事由はないと思われまので、本審議会を公開にしたいと思いますが、委員の皆さんよろしゅうございますでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○越宗会長 ありがとうございます。それでは、本日の会議の傍聴希望者には傍聴を許可したいと思います。

4 協議事項(1)岡山市第六次総合計画 前期中期計画にかかる平成28年度の取組状況について

○越宗会長 それでは、協議事項のほうに入ります。協議事項の1、平成28年度取組実績の報告について協議したいと思います。では、事務局から資料説明をお願いいたします。

○事務局(道広) 政策企画課の道広と申します。それでは、お手元の資料により岡山市第六次総合計画 前期中期計画にかかる平成28年度の取組状況についてご説明します。恐れ入りますが、座ってご説明させていただきます。

本年3月に策定した岡山市第六次総合計画 前期中期計画では、都市づくりの基本目標である「未来へ躍動する 桃太郎のまち岡山」の実現に向けて計画を着実に推進するため、政策ごとに設定した成果指標の達成状況や各施策のもとで取り組む主な事務事業の進捗状況等について毎年度評価を行い、公表することとしています。このたび計画初年度である平成28年度の取組状況について取りまとめましたので、報告させていただきます。

それでは、お手元の資料1、「岡山市第六次総合計画 前期中期計画にかかる平成28年度の取組状況（概要）」をご覧ください。1枚物になります。これは、後ほどご説明させていただきます資料2の概略としてまとめたものでございます。

まず、評価の基準についてですが、成果指標、事務事業とも、状況を判断するため、それぞれ区分を設けて評価しております。成果指標については、「上昇・改善」、「横ばい」、「低下・悪化」の3区分を設定しております。また、事務事業については、年度当初に計画されていた業務が予定どおり、または予定以上に実施されたもので、事業目標値がある場合は、目安として予定の9割以上を実施したものを「順調」とし、以下「概ね順調」、「やや遅れ」、「遅れ」の4区分で評価しております。

左側の成果指標の欄をご覧ください。成果指標は全部で82ございます。そのうち評価対象外となる36指標を除いた46の指標について、約8割に当たる36の指標が上昇・改善しております。なお、評価対象外となった指標は、市民意識調査のように2年に1回行われるものやこの時期までに判明してないものになります。

上昇・改善した主な指標としては、企業立地件数が前年に比べ4件増えて12件、コンベンション参加者数が前年に比べ約2万9,000人増えて18万1,000人余りなどとなっております。一方、横ばいだった指標は、全国学力・学習状況調査のB問題の偏差値など、また、低下・悪化した指標は、保育所等の待機児童数などとなっております。これら、横ばい、低下・悪化であった指標については、関連事業を点検し、指標の改善につなげてまいりたいと考えております。

次に、右側の主な事務事業の欄をご覧ください。各施策のもとで取り組む314の事務事業のうち、9割を超える299の事業が順調又は概ね順調で進捗しております。

順調であった主なものとしましては、先ほどの上昇・改善した指標と関連します企業立地推進事業、コンベンション誘致対策事業、県庁通りの1車線化の回遊性向上社会実験に取り組んだ、歩いて楽しい道路空間整備事業などが挙げられます。一方で、15の事務事業が当初の見込みよりもやや遅れの進捗となりました。主なものとしましては、自転車走行空間の整備や高齢者向け地域優良賃貸住宅（サービス付き）の整備などが挙げられます。これらの事業については課題を検証し、事業手法の改善などによって事業の推進を図っていききたいと考えております。

それでは、資料2、「桃太郎のまちづくりレポート2016」をご覧ください。資料には先ほどご説明しました資料1の詳細内容、また分野別計画及び区別計画の取組実績につ

いてまとめております。

1ページには、成果指標の評価基準、事業の進捗状況の評価基準、2ページから8ページまでは、各政策における成果指標についてまとめております。なお、ここでは「桃太郎のまち岡山」にちなみ、桃太郎の表情により評価を表しております。続きまして、各政策の事務事業の進捗状況は、9ページから19ページにまとめております。

次に、分野別計画の取組実績についてご説明します。23ページをご覧ください。まず、報告書の構成ですが、上段の成果指標の状況では、成果指標の基準値や実績値などとあわせて実績を踏まえた評価や分析を、下段の総括では、施策ごとに成果指標や事務事業の実績に基づいた総合評価を行っております。

24ページをご覧ください。こちらでは、施策ごとに取り組む事務事業の概要や、実績に基づいた今後の課題や方向性を記載しております。時間の都合上全てをご説明することができませんので、将来都市像ごとに主なもののみをご説明させていただきます。

将来都市像Ⅰ、「中四国をリードし、活力と創造性あふれる『経済・交流都市』」は、政策1から政策10までで、23ページから80ページまでとなります。

23ページをご覧ください。政策1、「新たな雇用と活力を生む戦略的な産業振興」ですが、成果指標の状況として先ほど概要でもご説明しました企業立地件数は、平成28年度から32年度までの合計値を目標値としておりますが、平成28年度は12件の実績があり、上昇・改善となりました。補助金制度の拡充や企業誘致活動に加え、岡山市の立地環境の優位性により上昇したものと分析しております。関連する総合評価としては、24ページの施策③、拠点性をいかした企業立地の推進、事務事業では26ページの企業立地推進事業、27ページの空港南産業団地整備事業となり、ともに順調に進捗しております。

次に、41ページの政策4、「国内外の人を惹きつける観光・交流の推進」ですが、成果指標では、転入超過者数について、移住相談会等を継続して実施しているものの、東日本大震災から時間が経過し転入超過の動きが弱まっていることなどから、基準値よりも減少しており低下・悪化となっております。総合評価として、42ページの施策④、移住・定住の促進の欄ですが、今後も移住相談会等と併せて住まいの確保等の支援を計画的に実施し、岡山連携中枢都市圏での取組なども進めてまいります。関連事業は46ページの移住・定住の促進で、概ね順調に進んでおります。

次に、将来都市像Ⅱ、「誰もが憧れる充実の『子育て・教育都市』」は、政策11から

政策19で、81ページから129ページまでとなります。

このうち115ページをご覧ください。政策17、「多様な主体による協働のまちづくり」における成果指標の状況では、ESDプロジェクト参加団体数は主に活動支援助成等により目標に向けて着実に増加しており、上昇・改善でございます。また、総合評価に関連する施策①、ESD活動の拡大と質の向上については、ESDの啓発活動や支援、情報発信などにより参加団体の拡大につながったことや、学校や公民館での取組により活動主体が徐々に育成されてきているものと考えております。関連する事業としては、116ページの岡山ESDプロジェクト推進事業など3事業で、進捗は順調又は概ね順調となっております。

97ページにお戻りください。続きまして、政策14、「知・徳・体の調和のとれた自立する子どもの育成」について、成果指標の全国学力・学習状況調査のB問題の偏差値では、授業改善に向けた取組を進めているものの横ばいとなっております。総合評価では、施策①、主体的な学びの推進による確かな学力の育成で、全国学力調査と併せて本年度から実施している岡山市独自の学力調査を有効活用することで、学力等の経年変化の把握や授業改善を図っていく必要があると考えております。関連事業としては、99ページに記載された学力向上推進プロジェクトなど4事業が順調、概ね順調となっております。

次に、81ページをご覧ください。政策11、「安心して子どもを産み育てることが出来る環境づくり」ですが、成果指標の保育所等の待機児童数について、保育の受け皿は拡大したものの、保育ニーズの増加や潜在的な保育ニーズの掘り起こし等により低下・悪化となっております。総合評価としては、施策①、仕事と子育ての両立のための基盤整備となり、82ページの私立保育所の施設整備など6事業は順調又は概ね順調に実施できたものの、結果的に基準値より悪化しており、引き続き待機児童ゼロを目標とした事業を推進してまいります。

次に、将来都市像Ⅲ、「全国に誇る、傑出した安心を築く『健康福祉・環境都市』」は、政策20から政策28まで、131ページから172ページまでとなります。

このうち135ページをご覧ください。政策21、「豊富な医療・介護資源をいかした安心の暮らしづくり」のうち、成果指標、認知症サポーター数は、目標に向けて順調に増加し、上昇・改善となっております。総合評価では、施策③、認知症対策の推進、関連事業として138ページの認知症初期集中支援チームなど5事業において順調又は概ね順調で進捗しております。次に、135ページにお戻りください。政策21の成果指標のう

ち、かかりつけ医がいる市民の割合は、出前講座など市民への普及啓発を行っているものの基準値を下回り、低下・悪化となりました。総合評価としては、施策②、在宅医療・介護の推進で、今後は地域ごとの特性に応じた在宅基盤整備等に取り組み、引き続き市民への普及啓発を図ってまいります。関連事業としては、138ページの在宅医療・介護連携推進事業など2事業が順調、概ね順調で進捗しております。

次に、「都市経営」は政策29から政策30まで、173ページから184ページとなります。

177ページをご覧ください。政策30、「将来世代に責任を持つ自主・自立的な行政運営」の成果指標の状況のうち、岡山市役所の管理職に占める女性の割合は、目標値に向けて着実に増加し、上昇・改善となっております。総合評価としては施策④、組織力の向上となり、182ページの適正な定員管理など4事業が順調に進捗しております。

次に、区別計画の取組実績についてご説明します。区別計画は、区づくりの将来目標の実現に向けて、区で重点的に推進する施策や市民生活に密着した施策展開の方向性を定め、そのもとで実施した平成28年度の取組状況についてまとめております。なお、区別計画では、その多くが分野別計画に基づく事務事業と重複していることから、各区の事務事業については施策展開の方向性ごとの評価や関連する事業について評価しております。

187ページをご覧ください。北区の区づくりの将来目標は、「自然と共生し、歴史と文化が薫る賑わいと交流のまち 北区」で、187ページから199ページまでとなります。総括としては、7つの施策展開の方向性ごとに総合評価を行っております。例えば、方向性1、「まちなかの魅力と賑わいの創出」については、西川緑道公園の特色をいかしたイベントの定期的な実施や旭川の周辺整備などにより、まちなかの魅力アップや賑わい創出につながっております。また、方向性2、「農村部、中山間地域の活性化」では、新規就農相談や研修会の実施などにより新規就農者の確保等につなげるとともに、御津・建部地域の地域おこし協力隊による地域の特産物等をいかした取組が地域活性化につながっております。188ページ以降、具体的な事務事業の実績等を掲載しております。

次に、201ページをご覧ください。中区の区づくりの将来目標は、「ふれあいと活気にあふれ、快適で住む喜びに満ちたまち 中区」で、201ページから208ページまでです。総括としては、5つの施策展開の方向性をもとに総合評価を行っております。例えば、方向性1、「交通利便性の向上」については、都心部への交通アクセス性の強化等に向けた下中野平井線（中環状線）、岡山赤穂線（外環状線）の整備やサイクル&バスライ

ド駐輪場の整備を着実に進めてまいりました。方向性2、「豊かな自然環境の保全・継承」では、NPOや公民館と連携し、水辺教室の開催やアユモドキの保護活動を実施しました。202ページ以降、具体的な事務事業の実績等を掲載しております。

それでは、209ページをご覧ください。東区の区づくり将来目標は、「いつまでも住み続けたい歴史が息づき愛着の持てるまち 東区」で、209ページから218ページまでとなります。総括として、6つの施策展開の方向性ごとに総合評価を行っております。例えば、方向性1、「地域資源を生かした魅力と賑わいづくり」については、西大寺朝市や五福通りレトロマルシェ等のイベント開催支援、西大寺会陽の英語版Webサイト制作支援等により、地域資源の魅力の向上と賑わいの創出を図ることができました。方向性2、「多世代が交流・活動できる地域づくり」では、地域づくりの取組への支援は一定の成果を上げているものの、人口が減少している東区においては、住民の高齢化や担い手不足が確実に進行しているため、担い手の確保、育成を図っていく必要があるものと考えています。210ページ以降、具体的な事務事業の実績等を掲載しております。

最後に、219ページをご覧ください。南区の区づくりの将来目標は、「ひと・まち・自然が調和し、笑顔輝く実りのふるさと 南区」で、219ページから226ページまでです。総括としては、6つの施策展開の方向性ごとに総合評価を行っております。例えば、方向性1、「地域で取り組む防災・防犯対策の充実」については、浦安、芳田の雨水排水施設整備、内水ハザードマップの作成や出前講座による市民への周知など、ハード・ソフト両面で浸水対策を推進しました。方向性3、「多様な担い手の参加・協働による地域活動の活性化」では、区づくり推進事業において、干拓地における防災訓練やイノシシ被害の防止・軽減事業など、住民自らが地域課題を解決しようとする特徴的な取組がありました。220ページ以降、具体的な事務事業の実績等を掲載しております。

以上、時間の都合上簡単な説明となりましたが、今回の取組状況につきましては、平成28年度にスタートした前期中期計画の計画初年度における評価で、成果指標では約8割以上が上昇・改善、事務事業では9割超の事業が順調あるいは概ね順調であったことから、前期中期計画に掲げる目標の達成に向けて順調なスタートが切れたものと考えられ、一定の評価ができるものと考えております。今後は、今回の評価結果を踏まえた上で各事務事業の方向性や手法等について検討・見直しを行い、来年度以降の予算に反映していきたいと考えております。以上でございます。

○越宗会長 ありがとうございます。それでは、28年度の取組実績報告に関しまして、委員の皆様からご意見をいただきたいと思っております。事前にこの資料はお手元に届いていると思っております。特にご専門の分野についてはお目通しをいただいていると思っておりますし、何しろ膨大な資料でございますので、ご発言も同じようなことになっても時間がかかなり必要でございますので、できるだけ分野別あるいは区別に分けて議事を進行したいと思っております。3つの将来都市像ごとに区切って議事進行いたしますけれども、ご専門の部分から具体的話をいただけるように私のほうから僭越ですが指名をさせていただきたいと思っておりますので、どうぞその点はご了承お願いしたいと思っております。

では、初めに将来都市像Ⅰ「経済・交流都市」の実現に向けての政策の1から10までです。これにつきましてご意見をいただきたいと思っておりますが、まず産業・経済という部分で梶谷委員から言っていただきましょうか。

○梶谷委員 ありがとうございます。非常にタイトな期間で、資料を十分に見切れてなくて申し訳ありません。比較的順調に推移していると理解をしております。産業面ではいろんな成果が出ているような気がいたします。企業のほうも活動が活発化してきているというように思います。

あとは、今、政策としてやっておられます中小企業の振興の基本条例等の進捗を今後も積極的に進めていただければと思います。

○越宗会長 ありがとうございます。加藤委員、いかがでございますか。

○加藤委員 私も、非常に充実した分厚い資料なので、はっきりとどこまで理解が進んでいるのか疑問なのですが、梶谷委員のお話のとおり全般的には岡山市の経済状況は順調にいらっていると弊行としても見ております。ただ一つ、この経済分野の課題になると思っておりますが、人の雇用状況が良いことは非常にいい面ではあるんですけども、かなり逼迫するという状況の中で、こういう事業をやりたいとか、この分野に投資したいと個々の中小企業の皆様が思っておられてもなかなか雇用のほうは充足されないとか、そういうような状況が問題だと言われる経営者の方が多いと私のほうは認識しております。果たして今、私が申し上げたのがこの経済・交流都市という分野の中に入ってくるのかどうか疑問ではありますが、そういう分野を除きますと非常に良い状況であって、先ほどの雇用指数にお

きまして日本の中でも非常に高い状況を示しているという状況の中で、こういう課題を解決できたらなあというふうに感じております。私からは以上です。

○越宗会長 ありがとうございます。今加藤委員おっしゃいました雇用の分ですが、企業立地件数では目標を上回るペースで推移しているんですけども、ただ新規雇用、常用雇用者っていうのは133人でしたか、そういうふうになっていると。やや物足りなさを感じるわけなんですけれども、経済効果の高い大型の企業誘致というのはなかなか用地等の問題で厳しい部分がございますけれども、そういう状況の中で県と共同で今、空港南産業団地の造成に取り組んでいらっしゃいまして、18年度ですか、分譲が。地域経済にとって雇用面でインパクトの大きい誘致が期待されているわけでありまして、そういう雇用という面では現状、それから今後について何かお考えはありますでしょうか。もしご意見があれば頂戴できれば。

はい、どうぞお願いします。

○産業政策担当局長 産業政策担当局長でございます。雇用の関係を担当しております。先ほど委員の皆様方からご指摘をいただきましたように、企業立地件数というのはなかなか大きな規模の製造業等は受け皿的に難しい部分があるんですけれども、いわゆる市内中心部でのオフィスですとかそういった部分を中心的に大森市長就任以降、施策を見直しながら取り組んでまいりまして、12件というような格好での状況でございます。

一方、岡山市内の有効求人倍率につきましては、昨年9月から今年の2月までは岡山ハローワーク圏内では2倍を超えておりまして、今若干下がってきて確か1.8倍前後ぐらいだったと思います。これでも市内の中小企業の製造業の社長さんの意向を伺いますと、なかなか人の雇用は難しいので若干仕事をセーブする、といいますか断っている部分もありますというようなことがございました。市としても雇用対策事業ということで、新規学卒者もしくはUIJターンでの就職を目指している学生の相談会ですとか、こういったものもこの8月には開催しております。今後のこととして、やはり市内の主な事業者というのは中小企業、小規模事業者がメインということになりますので、いかにこういったところの情報を提供して就職する際の選択肢に入れていただくか、こういうことも含めて、実は明日なんですけれども、岡山市では初めて中高生を対象として、市内事業者20社を集めての企業のPRといいますか、説明会的なことをおかやまコンベンションセンターで明

日10時半から行います。事業者で将来、岡山市内での就職者を幾らかでも本当に増やしていきたい、そういったことで将来を担う中高生の方に市内の中小企業がどういったことをしているかということを経験していただくというイベントを実は今年度から開催します。地道に将来雇用という部分で対応していきたいと思ひますし、現状での有効求人倍率が高いということで、新規学卒者、UIJターン等を見据えた合同企業説明会等でもそういったところへの対応というのは取り組んでいきたいと考えております。以上でございます。

○越宗会長 ありがとうございます。大体わかりました。すいません、それでは、「経済・交流都市」の部分で農林水産部門といいますか、小松委員さん、ご意見ございますか。

○小松委員 指標的に見ましても上昇・改善とか、それから細かい部分見ましても悪くてもやや順調というんでしょうか、そういうところで非常に数値的にもあらわれておりますし、それから6月30日、7月1日にかけて毎年開かれ、全国で順番で回ってくる食育大会が開かれて、そのときに私もシンポジウムのコーディネーターで参加したんですけども、非常にいい雰囲気の農業者の方々が出てきておられるなあっていうことで、何か私の皮膚感覚とこのデータっていうものがかなりフィットしてるなあということで、地道な取組が徐々にですけれども実を結んだのかなというふうな感想を持っております。以上でございます。

○越宗会長 ありがとうございます。都市計画、交通という分野で阿部委員さん、ご意見ございますか。

○阿部宏史委員 失礼いたします。指標で見ますと、概ね順調に進んでいるのかなと感じています。まちなかを見ますと最近は社会実験等も積極的に実施されていて、岡山市も徐々に変わりつつあるというのが市民の実感となってきたという気がいたします。

ただ、交通の関係は、今、私が委員長になりまして総合交通計画の策定、あるいは駅前広場への路面電車の乗り入れの検討をしているところです。いかんせんハード絡みの事業が多く、合意形成とか実際に整備が行われるのに時間がかかるという面もございます。先

ほど申し上げた社会実験等とうまくかみ合わせながら交通のマネジメントあるいは都市づくりのマネジメントも進めていく必要があると思います。少し長い目で見ていく必要があるというのが個人的な感想でございます。以上です。

○越宗会長 ありがとうございます。文化、スポーツという部分で梶谷委員さん。

○梶谷委員 スポーツ関係でいうと、いろんな意味で岡山は盛り上がりつつあると思います。ファジアーノも昨年は平均1万人を超えたというふうな、今年も頑張ろうとしています。それから、シーガルズもフィリピンのナショナルチームを受入れ、今度はペルーから。そういった海外のナショナルチームの受け入れというようなことも岡山市のいろんな補助金で実現をしている。私もこの前のフィリピンは行かせていただきました。向こうから来た選手が非常に喜んでいて、そういった選手は本国では非常に発信力があり、選手が岡山のよさを発信してくれているというわけで、岡山のイメージアップにつながっていると思います。そういった意味では岡山でいろんな大会をやりたいという意向はあるけれども、器の問題で厳しいという話もいろんなところで聞いております。

改めてスポーツと産業、そして海外とかよそから来たスポーツをやっている人と地域の住民がどう交流していくかというようなデザインをうまくやればスポーツというのはまだまだこれから大きな発展、可能性があると思います。スポーツ庁もいろんな旗揚げをやってきております。国もオリンピックを見据えながらいろんな政策をやっていますので、うまく使っていただきたい。これは時間との勝負というところもあるかと思っておりますので、できるだけ早く合意形成しながら次のステップへ。器も含めてになるかと思っておりますので、行政主体というよりも住民主体でそういった道をつくりながら行政が後押しをするという、まさに市民協働の仕組みづくりがスポーツでできていければというふうに思います。よろしく願いいたします。

○越宗会長 ありがとうございます。それでは、そのほかこの分野でご意見ございますでしょうか。

私は1点、政策4の部分での転入超過者数がちょっと低下しているなど。これは一時の東日本大震災以後の転入超過、かなりの大きな規模で推移しましたが、これも落ち着いてきたと。その震災による人口移動が落ちついてきたというようなことを拝見して言わ

れるんでありますが、その中で岡山連携中枢都市圏で移住ツアー、これを実施されたり、直近では7月に赤磐市、和気町、そして岡山市主催の第1回の相談ですか、これが大変好評で券があつという間に埋まったというふうに認めています。今後はそういう都市圏の枠組みを活用した医療対策等も考えられるんでしょうけども、このあたりで何かお考えがあればお教えいただきたいと思いますが。

○市民協働局長 市民協働局長でございます。ご意見ありがとうございます。今おっしゃいましたように連携での移住ツアー、実は昨日も2回目をやっておりましたが、これも大変好評でございます。確かに震災後のちょっとしたブームといいますか波がおさまってきたということは確かかもしれないんですけども、民間の調査ではあるんですが、引き続き岡山県というのは移住希望先として上位を占めております。相談会に来られる方のご意見を聞きますと、やはり岡山を選ばれる理由の一番大きなものというのが災害が少ないですとか、それから気候が温暖であるですとか、そういった声が大きいのも確かではございますが、それに加えて岡山圏域、連携中枢ということで岡山圏域全体の魅力をこれからも連携して発信していけるように、また市内でも何が岡山市の売りになるのかといったようなことも連携して進めてまいりたいというふうに考えております。

○越宗会長 どうぞよろしくお願いいたします。ほかにご意見がないようでしたら次の「子育て・教育都市」の実現に向けての政策11から19、これにつきましてご意見をいただきたいと思います。それでは、子育て・教育という部分で清板委員さん、どうぞよろしくお願いいたします。

○清板委員 先ほどの話題の、福島から岡山においでんせえ岡山という事業のほうでいらっしゃったという小さな子どもさんを抱えてるお母さんが、私の相談室に相談でいらっしゃっていて、やっぱり地域をかえて子どもを抱えて母がまず移住してこられて、そして父親が2年ほど遅れていらっしゃったという、そういういびつな時代を過ごさざるを得なかったということで、子どもさんたちが不登校になっているというようなケースで来られています。たまたま私のところにいらっしゃっているのは一応1人のケースなんですけれども、そういう移動に伴う子どもの発達段階やら父親の就労の問題やらとかを具体的に痛みとして抱えておられるんだということを実感しましたので、そういったあたりでも具体

的に最近経験したことではありました。

それで、この施策の12の施策①の子どもが安全で健やかに育つことができる環境づくりのところ、子どもの相談事業、相談主事の配置の事業が施策②の困難を抱える子ども・若者やその家庭への支援というところですけども、全体として見て、痛みを抱えている子どもたちやその家族に対する施策が少し弱いのかなあと感じました。改めてこの全体を読み直したときに、例えば学力が遅れているので、ちょっとそれを上げていこうとか、そういった前に進むべきことが順調にできていないということについての視点は見られるのですが、痛みを抱えている、あるいは格差の中にあるというふうな人たちへの施策が少し弱いのかなあという感じがしましたし、それに向けて行った施策がこういったものを配置したということはあるのですが、それによってこういった方たちの生活が改善したとか、そういった実績がまだ出てないのではないのかという感じがしています。

その中で施策②の困難を抱える子ども・若者とその家庭への支援の一番最初にある、相談主事の配置に関しては、ソーシャルワーカーなどの配置によって相談件数がこの1年間で6,299件も実績として報告されていて、これは大変多いなあと思いましたが、それだけ強いニーズがあったものがこうして浮上しているのかなあという感じがいたしました。

それから、91ページにある児童養護施設を退所したその後の子どもたち、あるいは児童養護施設にはいるんだが、里親制度によって家庭的な経験をさせてあげたいというこの施策に関しては、まだまだ数は決して多くはないのかもしれないですが、十分な支援をちゃんと強化していかななくてはいけないのではないかと、そんなふうなことを思いつつ拝見しました。

○越宗会長 ご所見ありがとうございます。高旗委員さん、いかがでしょうか。

○高旗委員 よろしくお願いたします。5ページの将来都市像Ⅱを拝見しておりますと、ほかの将来都市像ⅠやⅢに比べまして、やや渋目の桃太郎さんの顔が並んでいるように思えて、すこし気になりました。しかし、本文を拝見しますと、待機児童数の問題はやむを得ない部分もあると思いつつ、一方で、ほかのものについて「横ばい」とか「低下」している部分は（いささか語弊はあるかもしれませんが）誤差の範囲であり、比較的順調ではないかという印象を持ちました。

私の専門で申しますと、主に政策14あるいは15ということになります。ひとつは

様々なアセスメントを行う調査のために予算をしっかりと確保しておられ、その結果を活用しておられること、学校をサポートする人材の確保等についてもしっかりと予算を確保しておられることが読み取れました。本当にありがたいことと感じております。

2点ほど指摘をさせていただきます。ひとつは先ほどの調査の関係です。岡山市独自の学力アセスですとか、hyper-QU等についてしっかりと予算を確保していただいています。エビデンスに基づいた改善を進めていくことはとても大事です。是非これを続けていただきたいと思います。さらに踏み込めば、得られたデータを個々の学級担任や一人ひとりの先生に、子どもの個票という形で返し、そこから個々の先生が改善の手だてを講じるものとして活用されるようお願いしたいと思います。学校平均や学級平均等の「平均値」にしてしまいますと、全体的な傾向は見えますが、具体的な改善方策を実地に即して検討するには非常にものが見えにくくなってしまいます。このあたりの工夫をお願いできればと思います。

いまひとつは、大学で教職課程を担う者としても反省すべきこと、として申し上げます。若手の先生方が増えている現状で、これらの先生方の授業力向上支援に、教育委員会・学校・大学の一体的な関係で取り組む必要があると考えております。たとえば「校内OJTチーム」の実質的な運用がひとつの鍵になります。これに関わる様々な取組の充実が必要です。具体的には政策15の105ページ、106ページです。なかでも昨年度から申し上げている岡山市教育研究研修センターの機能強化、その立地の問題や、指導主事の先生方の増員等、是非手厚くしていただけないかと思っております。

ひとつご紹介します。現在、本学で県の教育委員会、特に津山教育事務所との共催という形で、津山教育事務所が管轄する約30中学校を10校ずつ3年に分けまして、そこにおられる若手の先生方の授業力向上支援に大学教員が講師として参画する「授業力パワーアップセミナー（若手教師授業力向上支援事業）」を進めております。同様の取組を岡山市さんとも実現できればありがたいと考えております。

そのためには、授業力向上支援に係るモデル校を明確に立てる必要があります。何かをより良くしていくには、まず、ある種のトップ集団をきちんとつくる必要があります。それを引き上げることをしなければなりません。そしてある程度引き上がったところで、それを全体に広めることも、後には必要になってまいります。いずれにしても、まずは授業力向上支援に係るモデル校を設定し、教育委員会・学校と大学が協働することが必要だと思います。

次の学習指導要領に対応できる授業力を備えた人材を養成するという事は、養成課程では当然大事ですけれども、実際に現場に入ってから研鑽を積むことがとても重要です。その意味では、我々大学の教員にとりましてもある種のアフターフォローという側面と、実際に先生になられた後の様子を拝見することの中で、逆に養成課程のありようを問い直す「ファカルティ・ディベロップメント」の要素もあります。こうしたことに参画させていただければありがたいと思います。

岡山っ子育成局、市民協働局、そして教育委員会の先生方のご尽力により、様々なことが非常に好転していると思っております。ありがとうございました。

○越宗会長 ありがとうございます。藤原委員さん、いかがでしょうか。

○藤原委員 専門的ということではなくて全体で見させていただいて意見を述べさせていただこうと思います。概ねこの成果指標、それから事務事業も大変上昇傾向になったり順調にいたり立派だと思っております。ただ、私が前から申し上げている安心して子どもが生き育てられる岡山、そして教育県の復活ということに関して見ました場合、桃太郎さんの渋い顔のマークがついている部分が多いのがちょっと気になります。特に政策14の偏差値のことなんですが、横ばいというふうになっておりますが、高い位置での横ばいはいいかと思います。多分これは全国的に見ても最下位のあたりの横ばいだと思っておりますので、やはりこの辺がちょっと私は気になるかなと。全体的に見て本当に大変立派に行われていると思うんですが、うちの会社でもISOの9001っていうのは毎年入れるようにして、社員は概ね良いものばかりを強調したがって、それでうまくいってないところはさらっと流すという傾向にありますので、マイナスの部分にもっと目を向けてそれに成果を上げるということが多分、それが一番市民にとっては市は頑張っているというふうに分えられるんじゃないかなあというふうに思いました。

それと、うちの会社の例を少し挙げてお話しさせていただきたいんですが、先日東京のほうから移住したいという、会社のほうへ志願してきた者がおりまして、女性なんですけれども、夫は置いて子ども2人、なぜかというとぜんそくがひどくて、全国全部回ったけれどもどこへ行ってもせきがとまらない、ただ岡山に着いた途端にせきをしなくなったので、どうしても子どもを連れて私が岡山で育てたいという人が来ました。10月から入ってくれるんですけれども、子ども2人をママが育てる、全面的に会社としては支援をして

いこうと思っているんですが、うちの会社みたいな小さなところもそういうふうな傾向にあると。

それから、明日開催される、中高生に向けて岡山の企業のPRをするのに参加させていただくんですけども、2年ほど前に中学生で体験入社、中学校2年生の子が3日間会社にやってまいりました。その子が初め入ったときは中2のときは成績も余り良くなく、何かやる気のない子だったんですけども、3日間うちの会社で仕事をしたことによってすごく目覚めて、それから勉強も一生懸命、高校もどうしてもうちの会社に入りたいと言って高校3年間ありとあらゆる資格を取って、それで今年の春入社したわけなんですけれども、そういう子どもを育てるといえるか、一人でもそういう子がうちの会社へ入ってくれてとても喜んでくれるんですけども、そういう子どもを育てるといえることに岡山市全体で取り組んでいただけたらありがたいなあと思いますし、やっぱり子どもの力というのは本当に無限大であるということを経験を通じて感じました。ですから、一つ紹介をさせていただこうと思いました。

それから、ものづくりの補助金の件ですが、今、固定化されてしまっているというふうにありましたが、私どもも企業でありながらそういうのが余りわからなくて、これを見てああって思いましたけれども、うちの業界でも経済産業省のものづくり補助金を出してくれるものですから、お客様の企業がその補助金を使って設備投資をものすごくたくさん始めました。ですから、うちの業界はどちらかというと余り景気がいい業界じゃなかったんですけども、ものづくり補助金によってこの2、3年、うちは違いますけど、よその小さなものをつくってるところなんか仕事を断らなくてはいけないぐらい良い状況になっている。ですから、そういうことも含めて、これ私の周りが今のミニ社会のような、まちづくりレポートの中にいろいろ取り上げられているものが、うちの会社の中にも見られるなというふうに感じました。ですけど、本当に岡山市のこの計画というのは立派だと思いますし、皆様の努力に私は頭が下がる思いでございますので、これからも十分やっていただきたいなと思います。以上でございます。

○越宗会長 ありがとうございます。塩見委員さんは基本的にまちづくりとかそういったことを。

○塩見委員 順調とか概ね順調が非常に多くて大変努力していただいているなということ

をまず感じます。ただ、岡山市連合婦人会も心豊かな岡山っ子応援団に平成19年からずっと寄附をさせていただいて支援をしているところなんですけれども、これ、赤ちゃんのいる家庭に絵本を愛育委員さんが配って、そして親子で絵本を読んで読み聞かせでゆったりした子育てをしていただくということなんですけれども、それ以外に何か事業の内容がありましたら教えていただきたいということ。それから協力団体が28年度1つも増えていないので、これを増やしていただく努力をしていただきたいなあというふうに1点は思います。

それからあともう1点、93ページの政策13のところなんですけれども、女性の活躍ですが、市役所の管理職に占める女性の割合、確か10.6%でしたか、市長さんのご努力によって増やしていただきましてありがたく思っていますが、多くの女性が企業に勤めている方が多いわけです。ですから、企業の管理職の従業員に占める割合をどのような形で増やしていらっしゃるかとセミナーとかなさっているんですけれども、もう少し力を入れていただきたいというふうに思っております。以上です。

○越宗会長 ありがとうございます。政策18の国際交流とか、あるいは多文化共生のまちづくりというのがありますけれども、片山委員さんいかがでしょうか。

○片山委員 政策18の国際交流、国際化について満足してる市民の割合というパーセンテージなんですけど、これにつきましては2年に1回ということでございますので、去年は実績値が出ておりませんので、わかりません。

次に、岡山市に住み続けたい外国人市民の割合ということで、これは目標値が88%とかなり高い数字なんですけど、これも元々基準値として83.1%で非常に近い数字が出ておりますし、実績値として1年間で0.7%だったというか、余り変わらなかったのかなと思ひまして、変わらないということは目標値に非常に近い数字であるので、そんなに悪くはないというふうに考えます。

それと、多文化共生のまちづくりの推進事業というのが126ページにございますが、事業の中の1つの取組実績として外国人市民会議を開催というのがあります。開催して皆さんの意見を集めるのは非常にいいと思います。提言書の内容を岡山市の施策に反映させるため、庁内で周知を図ったということなんですけど、外国人市民会議に出てきている内容を読みますと比較的具体的なものが多いので、周知を図るだけじゃなく、必要性が高く良

いと思われるものは是非早目の実行をお願いしたいと思っております。

今後の課題と方向性なんです、多文化共生のまちづくりの推進事業というのは、具体性を持たせるのが非常に難しいのではないかと思います。施策や事業を考えていく必要があるという非常に曖昧な言い方になっておりますが、この辺をもう少し踏み込んで、もし市民会議をもとに考えるのであれば一つひとつをもう少し詳しく検証し、生活者としての外国人の意見をもっと反映させるのがよいのではないかと思います。

また、次の日本語指導講師派遣事業なんです、これに関しましては日本語指導が必要な児童・生徒29名に、1クラス程度、そんなに多くの人数ではないのですが、それに対し473回の派遣ということは多いほうだと思いますので、量的にはかなり教育されているのではないかと思います。ただ、本当に日本語指導が必要な児童・生徒、高校生までを含めていいのかわかりませんが、そういう人たちが29名しかいないのかなと疑問に思います。実際はもっとたくさんいるのではないかなと、この辺の調査ができるのかできないのかわかりませんが、することも必要では、と、これは単なる問いかけなんですけれども、思います。

そして、帰国外国人児童・生徒の母国語に対応できる日本語支援員の人材の確保が必要であるということが今後の課題として出てきていますが、これは母国語に対応できる日本語支援員、例えば日本語教師ということですが、2カ国語なり3カ国語できる人はそんなに多くはありません。でも、日本語を教えることはできます。日本語教師は今全国的にも圧倒的に不足しております。日本語教育に対して国のほうでも重要性を認めて議員連盟ができて、国としても日本語教育に関して力を入れてきていますし、それに伴って文化庁のほうからは資格ということも厳しく言ってきております。学校でやる場合、資格はどの程度のレベルのものでいいのかわからないんですが、日本語教師の育成はそんなに難しいことではない、できることだと思いますので、より多くの日本語教師または日本語支援員をつくる必要があると思っております。

夜間中学、夜間高校の実態について、これは県のほうへ国から言ってきたという話を聞いたんですけども、今岡山県には夜間の中学は全くないということを知りました。東京、大阪、名古屋など大きな都市には夜間の中学があるそうなんです、今、日本人では夜間の中学校に行く人は非常に少ない。実は夜間の中学校に通っているのは外国人が多い。全国各県に夜間の中学校をつくるという話を聞きまして、外国人の教育ということに夜間中学がいいかどうかはわかりませんが、そういう方法も含めて県か市かわかり

ませんが、生活している外国人の人たちに対する言葉をはじめとする支援も是非お願いしたいと思います。

留学生は確実に増えておりますし、これからもっと増えるのではないかと思います。留学生の数が増えるとその生活へのサポートが大学だけではやっていけなくなるということも考えられますので、産官学連携してのサポートを考える時期に来ているのではないかと思います。以上でございます。

○越宗会長 ありがとうございます。だいぶ時間も少なくなってきましたので、ご意見もあるかもわかりませんが、次の「健康福祉・環境都市」、そして「都市経営」、これに関する政策の20から30です。ここににつきましてのご意見をお伺いしたいと思います。この分野につきましては、新市民病院あるいは地域ケア総合推進センター等を背景に非常に成果が上がってきているというふうに思いますけれども、岡本委員さんお待たせしました、どうぞ。

○岡本委員 全体的なところからコメントをさせていただきます。こうやって成果指標のもとに全ての項目を見直し、またこのような形で取組実績と今後の課題・方向性というものをつづつ丁寧に文字にして資料化するのは、非常にご苦労があったかと思うんですけども、市民にとっては非常にわかりやすく、もちろん私どもにもですけども、こういった進め方はとても素晴らしいと、重要だと思いました。お疲れさまでした。

また、今のところ順調とか概ね順調が結構多いんですけども、これについても1年目で安心をせずに、引き続きステップバイステップでどのように進めていくかという丁寧な進め方が必要かと思ったことに加えて、やや遅れになっているところについては、その後の9年間のたどり方に、重点事業をつくったりモデル事業化をしたりというような具体策をこの時点でしっかりとしていく必要があると思いました。

その中でも市民参加ということも考えまして、公表後の意見交換の場を設けながら、やはり市民全体で取り組むことができるたどり方を考えていただければいいかと思いました。

将来都市像Ⅲのところなんですけど、先に将来都市像Ⅱのところでは気になったところとか、教えていただきたいところがあるので言わせていただきます。5ページでは保育所等の待機児童数が増えているというご報告がありまして、その前に4ページに転入超過

者数、転入が減っているということもあって、岡山が住みやすいまち、安心して生きていけるまちというところでは、子どもたちを健やかに育てる環境をいかに整えてどう呼び込むかということが非常に重要なことだと思うので、この待機児童の施策がすごい大事と思いました。が、にもかかわらず14ページの政策11の施策①では、それを推進するための事業のところは概ね順調、順調という評価になっていて、何か矛盾しているというふうに思いました。具体的などころを見てみますと、それぞれの事業について一生懸命やっているというのは見えてくるんですけども、でも待機児童数は増えているので、その目標値としていることとやっていることがもしかしたら足りていない、矛盾していることが何かあるのではないか、その辺どうしてそうなるのかということ、増やそうとしているところよりもニーズのほうが多いということなのか、なぜそのようになっているのかを分析して次のステップを考えていく必要があると思いました。

健康の部分ですが、18ページを見ますと政策24のところでは自主防災会育成事業がやや遅れ、住宅用火災警報器の設置推進がやや遅れということになっていて、この項目は、地域で自分たちでどうしていくかということ、住民たちが考えながら、助け合い、共助だとか自助だとかを高めていく、地域のソーシャルキャピタルを高めていく上でも重要な事項と思いました。地域のソーシャルキャピタルを高めるということが岡山っ子の応援団の、そういう岡山を大事だなあと思う子どもたちを増やしたり、みんなで助け合おうねというところでは片親の事業も増やしたりだとか、それらの土台になっていくことだと思います。よって、全体を見たときに、やや遅れているところと連動して有効に機能しそうな重点事業が、この防災関係と考えます。今全国でいつどこでゲリラ豪雨が起り災害が起こるかわからないという時代になっているわけですので、是非この項目を重点事業化しつつ他の事業とも連動させて目標に到達していく具体的な案をこの時期にしっかり考えていく必要があると思います。以上です。

○越宗会長 ありがとうございます。浜田委員さんもお待たせいたしました。

○浜田委員 ありがとうございます。岡本委員からもいろいろございましたが、確かにこの7ページの一覧表を見ますと、この将来都市像Ⅲのところは桃太郎さんが非常にニコニコしているのが多くて、全体的には非常に順調に推移していると思います。

例えば認知症サポーターの数とか、それから生涯現役応援センターに登録した高齢者の

数とか非常に増えておりますし、それから生活保護者とか生活困窮者の方、こういう人たちの就労支援の数も1,000人単位で就労支援されてまして、非常に評価できるのではないかと考えています。かかりつけ医のいる高齢者の割合がちょっと伸び悩んでいるということで、この辺は課題かと思えます。

今地域包括ケアの構築とか、それから在宅医療の普及というのが岡山市のみならず全国的な課題になっておりますけれども、一朝一夕ではできない、例えば中学校区ごとにどういうふうにサービス体制をつくるかということで非常になかなか簡単にはいかない話なんですけれども、例えば御津医師会の先生方の試みとか、あるいはここの近くの清輝橋グループの開業医の先生方の活動とか非常にモデル的な活動も岡山はありまして、今後ともそういう医師、ケアマネ、訪問看護師、そういうものと連携していく、我々大学関係者も市役所と協働してやっていくということで地道に取り組んでいただければというか、我々もコミットしていきたいというふうに考えております。

あと、地域福祉の関係で政策22の17ページですが、施策③の地域福祉基盤づくり事業というのがありまして、非常に地味な事業だと思うんですけれども、岡山市の場合、地域包括支援センターとか公民館とかそのような現場の取組が非常に強みだというふうに考えてまして、公民館とか地域包括支援センターを通じて住民と一体となって活動していくというか、そういう流れができるといいなと考えておりまして、実際例えば三門学区の地域のみんなでつながりたいとか、それから平福地区のボランティアビューローとか、いろいろ住民の方々が独自の取組といいますか、独自のボランティア活動をされてて、それに公民館とか地域包括支援センターがうまく具合にコーディネートをして取り進めているというような事例が各地で出てきておりまして、そういった住民と一緒に市役所といいますか公民館とか地域包括支援センターを含めて住民と一緒に取り組んでいって、そういう流れが地域包括ケアとか在宅医療の普及とかにもつながるといいなというふうに考えております。以上です。

○越宗会長 ありがとうございます。政策24、25、防災とか安全・安心、あるいはその後の関係、このあたりで委員の皆さんからご意見がありましたらお願いしたいと思えますけれども。阿部委員さん、いいですか。

○阿部宏史委員 環境総合審議会の会長もさせていただいています。環境についてはここ

にいろいろと指標が書かれていて、概ね順調という指標が多いのですが、基本的には政策にそれぞれ挙げられている生物多様性戦略、地球温暖化防止計画、それから廃棄物処理の指標達成ということもあるのですが、こういった基本的な計画を着実に達成していくと。環境と共生した都市になるというようなイメージを着実につくっていくということが大事じゃないかなと思っております。

また、環境は最近のいろんな政策の基幹的部分となっており、実際に都市政策の中で見ますと、先ほどの都市整備とか、学校教育も含めてあらゆるところにつながっています。そこが十分に理解されて、横断的にいろいろ取り組まれているのかということと必ずしもそうではないところがあります。そういった課題も踏まえて、環境は都市の一番基盤になる政策の1つであるということ認識して、着実に取り組んでいかなければならないと思っております。

○越宗会長 ありがとうございます。そのほかご意見はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○越宗会長 それでは、「都市経営」という部分で特に財政問題ということでご専門の加藤委員さん、ご意見をいただきたいと思えます。

○加藤委員 私ども財政の数字を金融機関の側から見てみまして、概論で非常に申し訳ないのですが、需要と申しますか資金需要はずっと減ることなくあります。今非常に金融の利率、レート等が低い状況の中で、いろいろ濃淡をつけてやられているように思えます。金融機関とすればなるべく必要なところの部分で長期的な観点から十分対応のほうはさせていただきたいとは思っております。この内容について、個別には私のほうではコメントはございません。以上です。

○越宗会長 ありがとうございます。都市経営で政策30に「岡山市役所の管理職に占める女性の割合」というのがございます。平成27年度から2.2ポイント上昇して二桁台の10.6%を到達されております。岡山県に比べても高い数字ですが、目標が平成32年度に14%でしたか、ここの近くでいうと。ただ、民間企業あるいは国の目標値

に比べますとやや低いという感じがいたします。もちろん次々と女性管理職、ほかの市に誕生しておりますけど、もちろん大森市長さんは性別にとらわれない適材適所の人員配置ですとおっしゃっていますから今後進んでいくと思いますけども、民間では男性の育児休業取得等を推進するというようなこともやっておりますけども、子育てと仕事の両立のため女性が負担に感じないような、そういう取組というのは岡山市ばかりじゃないとは思いますが。市長さん、いかがですか。

○大森市長 今、塩見さんからもお話がありましたけど、人の登用というのは、やはり合理的でなければなかなか進まないもんだと私は思っています。

岡山市の管理職に占める女性の割合を6%から今10%にこの4年間で引き上げましたが、私は結果的に非常に良かったというように思っています。女性の能力が非常に発揮されている。具体的に言いますと、打ち合わせでも1人の女性が入っていてもなかなか女性って発言しにくい。それが2人なり3人なり入っていると、非常に女性なりの活発な意見が出てくる。実は今日、瞬間的に3分ぐらい遅れたのは、明後日の記者会見の議論をしたんですけれども、ここにも女性が多く入っておられました。非常に率直な意見がどんどん出てきているということでありました。

なぜ岡山市の女性登用が以前は低かったのか。能力的によければ、みんなどんどん登用してたのではないかという話があると思うんですけども、重大な欠陥があったんです。これが何かと言うと、子どもを産んで育児休暇の時に、それは仕事をしてたと見なさなかったんです。したがって、2人産めば4年とか5年、仕事をしない期間が出てくる。それが男性と比べていわゆる経験年数で遅れてくる。女性の場合はといいますか、市役所の人事の場合はやっぱり経験年数というのを一つ大きくポイントに上げますので、そこでどうしても差がついてきた。それを今回、仕事をしたと見なしていくという制度にかえました。となると、これを遡及的にやったことによって割と自由に女性の登用ができるようになったと。實際上、登用してみると本当にいい動きをしていただいています。そういったことを是非私は民間の企業でもお願いをしたいなあということで、今月末の商工会議所、梶谷さんもお出席されますけども、この会でも少人数同士の腹を割った会でも我々そういった話をさせていただいて、一朝一夕になかなか民間企業の場合いかないかもしれませんが、広めていきたいなあというように思っております。

労働界もまた同じで、本当に少ないです。ただ、労働界の場合はこの前連合の会長と話

しましたけど、この組合活動というのはやはり旦那さんの理解がないとなかなかできない。それは企業や経営者よりもかえって難しいかもしれない。でも、こういう動きがどんどんどんどん広がっていけばいいなあというように思っております。

○越宗会長 ありがとうございます。実は今日、区別計画についても委員の皆様ご意見をいただくことになっておりましたが、時間がもうかなり押してまして。何か特にこれは言っておきたい、区別計画の中のこの部分については言っておきたいというようなことがございましたら是非。特にはございませんか。よろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○越宗会長 ありがとうございます。それでは、ないようでございますので、協議事項の2、その他についてであります。事務局から何かございますか。

4 協議事項（2）その他

○事務局（道広） 今後の予定ですが、今年度の審議会は本日の1回だけの予定でございます。来年度は、平成29年度の取組実績等について報告させていただき、ご議論をいただきたいと考えておりますので、その際には何とぞよろしくお願い申し上げます。

○越宗会長 それでは、本日予定しておりました議事はこれで全て終了いたしました。事務局のほうに進行を戻します。

○事務局（草野） 越宗会長ありがとうございます。それでは、閉会に当たりまして大森市長からご挨拶を申し上げます。

○大森市長 今日はどうもありがとうございました。さまざまなご指摘を踏まえて今後の市政に反映させていきたいと思っております。

1つだけといいますか、全体について少しコメントだけさせていただきますが、経済界の方から経済が全体的に順調だというようなお話をいただきました。27年度、28年度の1年で比べるとは余りに短いということで、私自分が就任した年度との差というの

を今いろんな数字で調べているところでありまして、25年度と28年度、これ法人税ベースでいきますと企業の利益は岡山市の場合22%伸びています。これは全国に比べて非常に高い数字を示しています。そういうこともあって岡山市7,000人の人が増えてます。これは、實際上自然減に今なってます、いわゆる亡くなる方のほうが生まれる方よりも多いというような状況であるにもかかわらず7,000人増えてます。ちなみに隣の倉敷市は1,000人も減ってきている状況になってます。そういう大きな面での経済というのは岡山市の場合、結構しっかりしているのかなあというように思っている次第であります。

しかしながら、課題は山積をしている。今日、待機児童の話が出ましたが、実はこの3年間の間に1,966の受け皿をつくりました。これを10年ベースで見ると、始めの7年というのは780の受け皿をつくってるんです。年単位に直しますと110を最初の7年、そして直近のこの3年で1,966、年単位で700弱の受け皿をつくりました。年ベースでいきますと大体6倍ぐらいの受け皿をつくってるんですが、待機児童は、従前は数え方が違うというところがあるんですけれども、ゼロから849という数字になっております。そういう面では、需要が一気に噴き出したというか、つくることによって噴き出したということになっております。私はもちろんこれは早く解消していかなきゃならない最大のものの一つだとは思っておりますけれども、こういう現象というのは一時期は出てくるんじゃないかなあというように思っております。子育て環境の整備そのものが今の女性の活躍にももちろんつながっていきますし、若い人たちの収入が少ない、いわゆる格差問題の解消にもつながっていく、引いては会長からのお話がありました雇用の問題、有効求人倍率を少し縮めていくということにもつながって経済の活性化にもなっていきます。さまざまな要因の一つになっているわけでごさいます、待機児童を31年度末にゼロにしたいということも我々としては目標に掲げているところでごさいます。ここにもこう書かせていただいておりますが、それに向けて万全の動きをこれからしていきたいと思っております。

そのほかにも教育、藤原さんからお話ありましたように、私もこれ横ばいよりももっともっと桃太郎が怒った顔をしたほうがいいんじゃないかなあというように思います。例えば中学校の国語の成績は47都道府県の中で相当離れてビリであります。お恥ずかしいことだというように思っています。ただ、先生方一人ひとは非常に真面目にやっておられます。私も一昨日平津小学校の先生方とも話をしましたけども、一人ひとりの対応というの

は私は素晴らしいんじゃないかというように思っています。ただ、なぜそれが結果に結びついてないのか。先ほどおっしゃられたように、個別のデータを個別に落としていく作業というのはどうしていくのか。それを一つの線として、柱として教育委員会がどこまでやっていくのかというようなことがこれからのポイントになるんじゃないかというように思っています。

それから、市内の歩いて楽しいまちづくりというか、公共交通の話も存じ上げています。阿部先生がおっしゃったように、なかなかこれも一朝一夕で物事が動きません。ただ、そこは住民の方々のご理解を得ながら、関連の業界の方々のご理解も得ながら進めていくということをや、将来の目標に向かって動いていく。こういうのを様々な実験だとかそういうことをやりながら前に進めていきたいというように思っております。

最初に会長が、動いてきたけれどもやることはまだまだいっぱいだぞ、とおっしゃられた通りだと思っておりますので、今日のご意見などを踏まえながら精いっぱい頑張りたいと思いますので、よろしく願い申し上げます。今日はありがとうございました。

○事務局（草野） それでは、これをもちまして岡山市基本政策審議会を閉会いたします。皆様お疲れさまでございました。

閉会